

新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴う 主観的経済状況の変化と朝食および間食の摂取頻度との関連

研究分担者 佐々木 溪田 （実践女子大学生生活科学部）
研究協力者 杉浦 至郎 （あいち小児保健医療総合センター）
林 典子 （十文字学園女子大学人間生活学部）

研究要旨

【目的】新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴う経済状況と親子の食生活の変化の関連を把握し、「支援ガイド案」を作成する基礎資料を得ること。

【方法】令和 2 年度に本研究班で実施した「新型コロナウイルス感染症流行後の生活における幼児とその家族の食生活等実態アンケート」の調査データを分析に用いた。回答者は 2 歳から 6 歳の幼児に食事を提供している父母であり、地域ブロック別に合計 2,000 人をリクルートした。本研究では、無効回答者を除く 1,868 人を解析対象者とした。児に関する質問は、2 歳から 6 歳の幼児のうち、最も年齢の高い児に関して回答を求めた。本研究では、COVID-19 の流行前と比較した主観的な経済状況の変化と、親子の朝食摂取頻度や幼児の間食摂取頻度の増減との関連に着目した。

【結果】ほとんどの対象者では、COVID-19 の流行前と比較して、父母と幼児の朝食摂取頻度に変化はみられなかった。しかし、COVID-19 の流行前と比較した経済的ゆとりの減少が、父の朝食摂取頻度の増加と関連していた。母の回答では、経済的ゆとりの減少は朝食摂取頻度の増加と減少のいずれにも関連していた。経済状況の変化は、幼児の朝食摂取頻度の増減との間に統計学的に有意な関連を示さなかった。しかし、経済的ゆとりの減少は、幼児の間食摂取頻度の増加と関連していた。保護者の朝食摂取頻度の増加と幼児の間食摂取頻度の増加は、在宅勤務者が世帯内にいることと関連していた。

【結論】COVID-19 の流行による経済状況や勤務状況の変化は、父母の朝食摂取頻度や幼児の間食摂取頻度と関連していた。COVID-19 の流行下での親子の食生活支援には、各家庭の経済的な状況を考慮した対応が必要である。

A. 研究目的

我が国では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴う食生活の変化が報告されている^{1,2)}。しかし、本研究班が作成している食生活に関する支援ガイドで対象とする幼児の食生活については、COVID-19 の流行が食物摂取頻度にどのよ

うな影響を与えているかという知見はない。

また、COVID-19 の対策として発出された緊急事態宣言やロックダウンが食生活を含む日常生活に与える影響は、経済状況と関連することが示されている^{3,4)}。

そこで、本研究班では COVID-19 の流行が遷延する社会環境における、幼児と保護

者の健康・食生活・生活習慣・子育て状況の実態を把握し、新しい生活様式にも対応可能な支援ガイド案を作成する基礎資料を得ることを目的として、昨年度に全国の保護者を対象としたインターネット調査を実施した。本分担研究では、この調査で得られた結果を用いて、COVID-19による経済状況の変化と親子の朝食摂取頻度や幼児の間食摂取頻度との関連を検討した。

B. 方法

令和2年度に本研究班で実施した「新型コロナウイルス感染症流行後の生活における幼児とその家族の食生活等実態アンケート」⁵⁾の調査データを利用した。

1. 研究対象

2歳から6歳の幼児に食事を提供している者を対象として、インターネットを用いた横断調査を令和3年2月24日～25日に実施した。調査対象者は株式会社クロス・マーケティングに登録された者である。対象者は地域ブロック別に合計2,000人をリクルートした。対象者の抽出方法の詳細については、令和2年度の研究報告書⁵⁾を参照されたい。

回答が得られた2,000人のうち、データセットの有効回答者は1,982人だった。さらに本研究では、続柄が「子どもの祖父母」、母親の就労状況が不明あるいは「答えたくない」、現在の経済状況・COVID-19による経済状況変化が「答えたくない」、朝食や間食の摂取頻度が「答えたくない」を除く、1,894人を解析対象者とした。

2. 解析に用いた項目

インターネット調査で設定した調査項目

のうち、本研究では、研究目的に合わせて表1に示す項目を解析に用いた。

3. 統計学的解析

我が国では男女共同参画社会の形成が進められているが、多くの家庭では幼児の食生活に対する関与は父と母の間で異なると推測される。そこで、本分担研究では、調査結果を父と母の回答で分けて分析した。

現在の経済状況については、「現在のお子さんのご家族の経済的な暮らし向きについて、あてはまるものを1つ選んでください。」とする質問文について、「ゆとりがある」、「ややゆとりがある」、「どちらともいえない」と回答した者（ゆとりなし非該当）と「あまりゆとりはない」あるいは「全くゆとりはない」と回答した者（ゆとりなし該当）に区分した。COVID-19による経済状況の変化については、「経済的な暮らし向き（ゆとり）は、コロナ前と変化がありましたか。」とする質問文について、「かなり増えた」、「やや増えた」、「変わらない」と回答した者（ゆとり減少なし）と「やや減った」あるいは「かなり減った」（ゆとり減少あり）と回答した者に区分した。朝食・間食の摂取頻度の変化は、「かなり増えた」と「やや増えた」を「増加」、「変わらない」を「不変」、「やや減った」、「かなり減った」を「減少」とした。

COVID-19による経済状況の変化と朝食や間食の摂取頻度の増減との関連について、父母の回答別に χ^2 検定を行った。さらに、危険率が5%未満の関連がみられた摂取頻度の変化については、摂取頻度の増減を従属変数、経済状況の変化を独立変数とした多項ロジスティック回帰分析を行った。この分析では、摂取頻度が「不変」であること

を従属変数の対照とした。また、現在の経済状況、幼児の年齢・性別・出生順位、施設での保育の有無、回答者の年齢、母親の就労有無、在宅勤務者の有無を調整変数とした多変量解析モデルを採用した。

4. 倫理面への配慮

インターネット調査の実施にあたり、調査を受けることの同意は、日本マーケティングリサーチ協会による綱領及びガイドラインに基づく C 社による説明文と、本調査内容に関する説明文を提示したうえで取得した。説明文には、調査で得られた情報が個人を特定できない内容で統計処理されること、学術報告として発表される場合があること、調査目的以外の利用をしないことなどを含めた。本研究は、女子栄養大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号第 317 号）。

C. 結果

児と回答者の属性、経済状況の変化を表 2～4 に示した。経済状況の変化では、全解析対象者の 23.3% (441/1,894 人) が「ゆとり減少あり」に該当した。経済状況の変化と現在の経済状況との間には、統計学的に有意な関連性がみられた（表 5）。

経済状況の変化と朝食・間食の摂取頻度の増減との関連について、表 6 に示した。ほとんどの対象者では、COVID-19 の流行前と比較して、父母と幼児の朝食摂取頻度の変化はみられなかった。しかし、経済的なゆとりの減少は、父母の朝食摂取頻度の変化と関連していた。しかし、経済的なゆとりの減少は、幼児の朝食摂取頻度と統計学に有意な関連を示さなかった。経済的なゆとりの減少は、母の回答における幼児の間食

摂取頻度の変化と有意な関連を示した。

経済状況の変化と関連がみられた摂取頻度の変化について、多項ロジスティック回帰分析によって調整オッズ比を求めた結果を表 7、8 に示す。

父の回答では、経済的なゆとりの減少と朝食摂取頻度の増加との間に有意な関連がみられた（表 7）。母の回答については、摂取頻度の増加と減少のいずれもが経済的なゆとりの減少と正の関連を示した。また、現在の経済状況にゆとりがないことや母の年齢は、母の朝食摂取頻度増加と負の関連を示し、朝食摂取頻度減少と正の関連を示した。さらに、在宅勤務者がいることは、父母の朝食摂取頻度の変化と有意な関連を示した。

父と母のいずれの回答でも、経済的なゆとりの減少と幼児の間食摂取頻度の増加との間に有意な関連がみられた（表 8）。さらに、在宅勤務者がいることは、間食摂取頻度の増加と正の関連を示した。

D. 考察

本研究では、COVID-19 の流行が遷延する社会環境における、経済状況の悪化と朝食や間食の摂取頻度の変化との関連を把握し、支援ガイド案を作成する基礎資料を得ることを目的とした。その結果、COVID-19 の流行前と比較して、ほとんどの対象者では朝食の摂取頻度に変化はみられなかった。これまでの海外の研究では、COVID-19 の流行下での朝食摂取頻度の減少を示す報告があり、本研究結果と矛盾している^{6,7)}。この結果の違いは、調査地域だけでなく調査時期が異なることによるものと考えられる。本研究は COVID-19 の流行下はあるが感染対策が長期化した時期に実施しており、対象者は健康危機の発生に馴化してきた可能

性が考えられる。また、既報では、貧困層で朝食摂取頻度が少ないことが示されている。本研究では、現在の経済状況にゆとりがないことは、母の朝食摂取頻度減少と関連していたが、COVID-19 の流行による経済状況の悪化は、朝食摂取頻度の増加だけでなく減少とも関連していた。また、朝食の摂取頻度の変化は、在宅勤務者がいることと正の関連を示した。これらの結果の理由を明らかにするためには、さらに検討が必要と考える。

本研究では、約 20%の幼児に間食摂取頻度の増加がみられた。さらに、COVID-19 の流行に伴う経済状況の悪化や在宅勤務者がいることは、間食摂取頻度の増加と関連していた。間食のなかでも甘味飲料や菓子の摂取過多は、成長後の生活習慣病の発症リスクになることが指摘されている^{8,9)}。したがって、幼児の食生活支援においては、世帯の経済状況を考慮した対策が必要と考えられる。

E. 結論

COVID-19 の流行による経済状況の悪化や在宅勤務の増加は、父母の朝食摂取頻度や幼児の間食摂取頻度と関連していた。COVID-19 の流行下での幼児の食生活支援には、各家庭の経済的な状況や勤務状況を考慮した対応が必要である。

参考文献

- 1) 島田加津美、久米真. COVID-19 感染対策で Stay Home 中の慢性疾患患者における食事摂取状況と体重の変化について. *Therapeutic Research* 2021; 42: 641-650.
- 2) 藤平眞紀子、久保博子、星野聡子. コロナ禍による女子大学生の日常生活への影響. *日本家政学会誌* 2021; 72: 581-600.
- 3) 林芙美、武見ゆかり、赤岩友紀、石川ひろの、福田吉治. COVID-19 感染拡大の影響下における人々の食生活への関心の変化と関連要因. 食生活関心度尺度を用いた検討. *日本公衆衛生雑誌* 2021; 68: 618-630.
- 4) Spyrelli E, McKinley MC, Woodside JV, *et al.* A qualitative exploration of the impact of COVID-19 on food decisions of economically disadvantaged families in Northern Ireland. *BMC Public Health*. 2021; 21: 2291.
- 5) 佐々木溪円他. 幼児と保護者の健康・食生活・生活習慣に関する研究～新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行拡大後の実態～. 厚生労働行政推進調査事業費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援に向けた効果的な展開のための研究」(研究代表者: 衛藤久美) 令和 2 年度総括・分担研究報告書. 2021 : 77-107.
- 6) Seda K, Zeynep Uzdil, Funda Pinar Cakiroğlu. Evaluation of the effects of fear and anxiety on nutrition during the COVID-19 pandemic in Turkey. *Public Health Nutr* 2021; 24: 282-289.
- 7) Tamires CS, Lívyia AO, Marina MD, *et al.* Lifestyle and eating habits before and during COVID-19 quarantine in Brazil. *Public Health Nutr* 2022; 25: 65-75.
- 8) Leermakers ETM, Felix JF, Jaddoe VWV, *et al.* Sugar-containing beverage intake at the age of 1 year and cardiometabolic health at the age of 6 years: the Generation R Study. *International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity* 2015; 12:

114.

9) Fidler MN, Braegger C, Bronsky J, *et al.* Sugar in infants, children and adolescents: A position paper of the European Society for Pediatric Gastroenterology, Hepatology and Nutrition Committee on Nutrition. *Journal of Pediatric Gastroenterology and Nutrition* 2017; 65: 681-696.

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

佐々木溪円, 鈴木美枝子, 多田由紀, 船山ひろみ, 近藤洋子, 杉浦至郎, 山崎嘉久, 吉池信男, 石川みどり, 衛藤久美. 新型コロナウイルス感染症の流行拡大による幼児期の親子の食生活と健康状態の変化. 第80回日本公衆衛生学会総会, 東京 (ハイブリッド方式) 2021年12月21 - 23日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表 1. 調査項目

あなたはお子さんとどのような続柄ですか。

[子どもの母親 | 子どもの父親 | 子どもの祖父母 | それ以外の養育者]

お子さんの性別を教えてください。

[男児 | 女児]

お子さんは何人目のお子さんですか。

[第1子 | 第2子 | 第3子 | 第4子以降]

お子さんの日中の保育について、主に保育をお願いしている先としてあてはまるものをすべて選んでください。(MA)

[保育所(園) | 幼稚園 | 認定こども園 | 祖父母や親戚 | その他 | お願いしていない]

現在、お子さんのお母さんは働いていますか。

[働いている | 働いていない | わからない]

あなたが朝食を食べる回数は、コロナ前と比べて変化がありましたか。

[かなり増えた | やや増えた | 変わらない | やや減った | かなり減った]

お子さんが朝食を食べる回数は、コロナ前と変化がありましたか。

[かなり増えた | やや増えた | 変わらない | やや減った | かなり減った]

お子さんが間食を食べる回数は、コロナ前と変化がありましたか。

[かなり増えた | やや増えた | 変わらない | やや減った | かなり減った]

下線は質問文、[] 内は選択肢、MA は複数選択可とする。

表 2. 児の特性

	回答者＝父				回答者＝母			
	ゆとり減少あり		ゆとり減少なし		ゆとり減少あり		ゆとり減少なし	
	(n=169)		(n=624)		(n=272)		(n=829)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
<u>年齢</u>								
2 歳	19	11.2	64	10.3	40	14.7	146	17.6
3 歳	22	13.0	104	16.7	52	19.1	127	15.3
4 歳	32	18.9	116	18.6	57	21.0	167	20.1
5 歳	50	29.6	162	26.0	58	21.3	197	23.8
6 歳	46	27.2	178	28.5	65	23.9	192	23.2
<u>性別</u>								
男児	92	54.4	321	51.4	127	46.7	399	48.1
女児	77	45.6	303	48.6	145	53.3	430	51.9
<u>同胞</u>								
なし	97	57.4	370	59.3	160	58.8	551	66.5
あり	72	42.6	254	40.7	112	41.2	278	33.5
<u>主な保育先</u>								
施設利用あり	146	86.4	569	91.2	218	80.2	666	80.3
施設利用なし	23	13.6	55	8.8	54	19.9	163	19.7
<u>保育先</u>								
保育園	56	33.1	269	43.1	89	32.7	274	33.1
幼稚園	67	39.6	245	39.3	79	29.0	264	31.9
こども園	25	14.8	65	10.4	54	19.9	132	15.9
祖父母など	5	3.0	9	1.4	6	2.2	10	1.2
その他	2	1.2	5	0.8	6	2.2	15	1.8
保育先なし	18	10.7	47	7.5	45	16.5	142	17.1

「経済的な暮らし向き（ゆとり）は、コロナ前と変化がありましたか。」とする質問文について、「かなり増えた」、「やや増えた」、「変わらない」と回答した者を「ゆとり減少なし」とし、「やや減った」あるいは「かなり減った」と回答した者を「ゆとり減少あり」とした。

表 3. 回答者の属性

	回答者＝父				回答者＝母			
	ゆとり減少あり		ゆとり減少なし		ゆとり減少あり		ゆとり減少なし	
	(n=169)		(n=624)		(n=272)		(n=829)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
<u>居住地域</u>								
北海道	5	3.0	27	4.3	10	3.7	28	3.4
東北	13	7.7	37	5.9	14	5.2	57	6.9
関東首都圏	56	33.1	192	30.8	65	23.9	237	28.6
関東その他	8	4.7	52	8.3	25	9.2	56	6.8
北陸	6	3.6	24	3.9	13	4.8	33	4.0
東海	20	11.8	72	11.5	44	16.2	99	11.9
近畿首都圏	25	14.8	79	12.7	33	12.1	115	13.9
近畿その他	5	3.0	17	2.7	11	4.0	24	2.9
中国	13	7.7	24	3.9	21	7.7	51	6.2
四国	5	3.0	19	3.0	3	1.1	27	3.3
北九州	6	3.6	46	7.4	19	7.0	57	6.9
南九州	7	4.1	35	5.6	14	5.2	45	5.4
<u>母親の就労状況</u>								
就労あり	95	56.2	385	61.7	142	52.2	412	49.7
就労なし	74	43.8	239	38.3	130	47.8	417	50.3
<u>在宅勤務の有無</u>								
	(n=169)		(n=612)		(n=272)		(n=825)	
あり	54	32.0	205	33.5	46	16.9	197	23.9
なし	115	68.1	407	66.5	226	83.1	628	76.1

※年齢：父 42±6 歳、母 37±5 歳

表 4. COVID-19 前と比較した主観的経済状況の変化

	回答者＝父 (n=793)		回答者＝母 (n=1101)	
	n	%	n	%
かなり増えた \$	12	1.5	12	1.1
やや増えた \$	39	4.9	45	4.1
変わらない \$	573	72.3	772	70.1
やや減った †	111	14.0	184	16.7
かなり減った †	58	7.3	88	8.0
ゆとり減少なし（再掲） \$	624	78.7	829	75.3
ゆとり減少あり（再掲） †	169	21.3	272	24.7

表 5. 現在の主観的経済状況と COVID-19 前と比較した変化

	回答者＝父				回答者＝母			
	ゆとり減少あり		ゆとり減少なし		ゆとり減少あり		ゆとり減少なし	
	(n=169)		(n=624)		(n=272)		(n=829)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
現在ゆとりなし								
該当†	104	61.5	141	22.6	169	62.1	196	23.6
非該当‡	65	38.5	483	77.4	103	37.9	633	76.4
	P < 0.001				P < 0.001			
ゆとりがある‡	5	3.0	74	11.9	5	1.8	77	9.3
ややゆとりがある‡	18	10.7	205	32.9	40	14.7	281	33.9
どちらともいえない‡	42	24.9	204	32.7	58	21.3	275	33.2
あまりゆとりはない†	66	39.1	114	18.3	100	36.8	150	18.1
全くゆとりはない†	38	22.5	27	4.3	69	25.4	46	5.6

P: χ^2 検定 現在の経済状況については、「現在のお子さんのご家族の経済的な暮らし向きについて、あてはまるものを1つ選んでください。」とする質問文について、「ゆとりがある」、「ややゆとりがある」、「どちらともいえない」と回答した者（ゆとりなし非該当）と「あまりゆとりはない」あるいは「全くゆとりはない」と回答した者（ゆとりなし該当）に区分した。

表 6. COVID-19 による経済状況の変化と朝食・間食の摂取頻度の変化

	回答者＝父				回答者＝母			
	ゆとり減少あり		ゆとり減少なし		ゆとり減少あり		ゆとり減少なし	
	(n=169)		(n=624)		(n=272)		(n=829)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
<u>保護者の</u>								
<u>朝食摂取頻度</u>								
増加	15	8.9	35	5.6	18	6.6	41	4.9
不変	148	87.6	581	93.1	240	88.2	778	93.8
減少	6	3.6	8	1.3	14	5.1	10	1.2
<i>P</i>	0.037				<0.001			
<u>幼児の</u>								
<u>朝食摂取頻度</u>								
増加	10	5.9	39	6.3	13	4.8	37	4.5
不変	157	92.9	582	93.3	254	93.4	788	95.1
減少	2	1.2	3	0.5	5	1.8	4	0.5
<i>P</i>	0.587				0.095			
<u>幼児の</u>								
<u>間食摂取頻度</u>								
増加	27	16.0	62	9.9	70	25.7	156	18.8
不変	139	82.2	554	88.8	193	71.0	660	79.6
減少	3	1.8	8	1.3	9	3.3	13	1.6
<i>P</i>	0.074				0.007			

P: χ^2 検定

表 7. 保護者の朝食摂取頻度の変化（多項ロジスティック回帰分析（オッズ比 [95%信頼区間]））

従属変数	独立変数・調整変数		回答者＝父			回答者＝母		
摂取頻度増加	ゆとり減少あり	該当	2.39	[1.18-	4.86]	2.23	[1.17-	4.25]
		非該当	Ref.			Ref.		
	ゆとりなし	該当	0.52	[0.24-	1.11]	0.47	[0.23-	0.95]
		非該当	Ref.			Ref.		
	幼児の年齢		0.97	[0.76-	1.23]	1.18	[0.94-	1.49]
	幼児の性別	男児	Ref.			Ref.		
		女児	0.71	[0.38-	1.31]	0.97	[0.56-	1.67]
	同胞の有無	なし	Ref.			Ref.		
		あり	0.73	[0.38-	1.41]	0.80	[0.42-	1.52]
	施設での保育	あり	0.70	[0.23-	2.13]	0.60	[0.25-	1.44]
		なし	Ref.			Ref.		
	回答者年齢		0.95	[0.91-	1.00]	0.89	[0.84-	0.94]
	母親の就労	あり	1.63	[0.82-	3.23]	1.26	[0.67-	2.36]
		なし	Ref.			Ref.		
	在宅勤務者	あり	4.84	[2.58-	9.11]	2.70	[1.52-	4.79]
		なし	Ref.			Ref.		
摂取頻度増加	ゆとり減少あり	該当	2.93	[0.84-	10.3]	3.14	[1.27-	7.78]
		非該当	Ref.			Ref.		
	ゆとりなし	該当	1.50	[0.43-	5.32]	2.54	[1.00-	6.44]
		非該当	Ref.			Ref.		
	幼児の年齢		1.37	[0.82-	2.30]	1.06	[0.73-	1.53]
	幼児の性別	男児	Ref.			Ref.		
		女児	2.38	[0.71-	7.97]	0.81	[0.35-	1.87]
	同胞の有無	なし	Ref.			Ref.		
		あり	1.28	[0.40-	4.10]	1.41	[0.61-	3.30]
	施設での保育	あり	0.31	[0.05-	1.73]	0.54	[0.14-	2.05]
		なし	Ref.			Ref.		
	回答者年齢		1.02	[0.93-	1.12]	1.09	[1.00-	1.19]
	母親の就労	あり	2.09	[0.59-	7.44]	1.39	[0.54-	3.60]
		なし	Ref.			Ref.		
	在宅勤務者	あり	2.83	[0.91-	8.76]	2.55	[1.01-	6.42]
		なし	Ref.			Ref.		

摂取頻度が「不変」であることを従属変数の対照とした。

表 8. 幼児の間食摂取頻度の変化（多項ロジスティック回帰分析（オッズ比 [95%信頼区間]））

従属変数	独立変数・調整変数		回答者＝父			回答者＝母		
摂取頻度増加	ゆとり減少あり	該当	2.01	[1.17-	3.46]	1.61	[1.13-	2.29]
		非該当	Ref.			Ref.		
	ゆとりなし	該当	0.94	[0.55-	1.60]	0.96	[0.68-	1.35]
		非該当	Ref.			Ref.		
	幼児の年齢		0.88	[0.73-	1.05]	0.90	[0.79-	1.03]
	幼児の性別	男児	Ref.			Ref.		
		女児	1.16	[0.73-	1.85]	0.93	[0.69-	1.26]
	同胞の有無	なし	Ref.			Ref.		
		あり	0.91	[0.56-	1.47]	1.03	[0.75-	1.43]
	施設での保育	あり	2.03	[0.72-	5.70]	0.75	[0.47-	1.21]
		なし	Ref.			Ref.		
	回答者年齢		0.98	[0.94-	1.02]	1.00	[0.97-	1.04]
	母親の就労	あり	1.37	[0.83-	2.28]	1.37	[0.97-	1.93]
		なし	Ref.			Ref.		
	在宅勤務者	あり	2.19	[1.38-	3.47]	1.44	[1.01-	2.04]
		なし	Ref.			Ref.		
摂取頻度増加	ゆとり減少あり	該当	2.05	[0.48-	8.82]	2.19	[0.86-	5.59]
		非該当	Ref.			Ref.		
	ゆとりなし	該当	0.40	[0.08-	2.14]	1.35	[0.54-	3.42]
		非該当	Ref.			Ref.		
	幼児の年齢		1.15	[0.71-	1.88]	0.82	[0.56-	1.21]
	幼児の性別	男児	Ref.			Ref.		
		女児	2.03	[0.57-	7.15]	3.27	[1.19-	9.01]
	同胞の有無	なし	Ref.			Ref.		
		あり	0.86	[0.24-	3.14]	1.26	[0.51-	3.13]
	施設での保育	あり	0.25	[0.04-	1.59]	1.46	[0.39-	5.44]
		なし	Ref.			Ref.		
	回答者年齢		0.95	[0.86-	1.06]	1.03	[0.94-	1.13]
	母親の就労	あり	2.72	[0.61-	12.0]	0.48	[0.18-	1.26]
		なし	Ref.			Ref.		
	在宅勤務者	あり	1.24	[0.35-	4.39]	1.35	[0.47-	3.87]
		なし	Ref.			Ref.		

摂取頻度が「不変」であることを従属変数の対照とした。

